

令和元年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

白岳中学校区 校番 3 学校名 呉市立白岳中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))																														
***	<p>基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p>	<p>① 生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。</p> <p>学習観をレベルアップさせ、自律した学習者を育てる。</p>	<p>互いの考えを深め合う場面を効果的に取り入れることで、主体的に学び、「学び合い」を大切にした授業づくりを進めた。学び合いを通して理解を深めることができたとする生徒は目標値を大きく上回り、増えてきている。発言が一方通行になっている場面も見られるので、さらに取組が必要である。</p> <p>多くの生徒が授業や補充学習に意欲的に取り組み、学習内容を分かろうと努力している。目標値も達成することができた。一方で、学習意欲が低い生徒が固定化してきていることが課題である。</p> <p>学習観レベルアップ講座を通して、学び方や家庭学習(JCノート)の全体指導を行った。学年×15分以上家庭学習に取り組む生徒は79%と目標値の80%に近づいたが、JCノート(自主学習)を毎日提出している生徒は目標値を下回った。JCノートについては、90%を超えている学年や学級もあることから、指導に温度差が見られる。家庭学習充実の取組を組織的に進めていくことが課題である。</p> <p>学校推薦図書を各クラスの図書委員が熟慮してセレクトしたため、学級文庫を中心に読む生徒が増えてきた。</p>	<p>中学校区で小中一貫して取り組んでいる「学び合い」を大切にしたい授業づくりについて、授業研究等で研修をさらに進める。その際、発言の2.5往復やつなぎの言葉など、深め合う活動を充実させていくための指導方法を中心にしながら、指導力の向上を図る。</p> <p>教科担任と学級担任とが連携し、課題提出の徹底や補充学習の充実に取り組む。</p> <p>JCノートでは、内容を細かく丁寧に評価し、家庭学習の充実の基盤となるようにする。また、日記を通して生徒の心の姿をつかみ、心の交流につなげる。このようなJCノートの役割や取組の仕方について、職員研修を行う。学習観レベルアップ講座については、さらに内容を改善・実施することで、より効果的な学習法を身に付けさせ、予習・復習が定着するよう取り組む。</p> <p>1年生の教室には学級文庫を40冊設置し、全員に本がゆきわたるようにする。3年の学級文庫には2学期に2年生で行った一斉読書(日本の名作)を設け、全員が同じ本を読み書評を書く取組を行う。</p>																														
**	<p>話し合い活動の中で自己決定能力を高め、規範意識を身につけ、認める・ほめる指導により、自尊感情を高める。</p>	<p>ルールやマナーなど規範意識を身につける指導の徹底を図る。</p> <p>キャリア教育を充実させ、明確な夢や目標を持つ生徒を育成する。</p>	<p>ルールやマナーを守って生活している生徒の割合は、中間結果をさらに上回り、目標値を達成することができた。着ベル運動などにより生徒の意識を高めることができた。</p> <p>部活動に満足している生徒の割合は、中間結果をさらに上回り、目標値を達成することができた。主体的に活動し、目標を持って取り組むことができていた。</p> <p>文化活動発表会に満足している生徒の割合は中間結果と同じく、目標値を上回った。合唱コンクールでは生徒一人ひとりが目標を持ち、クラスで取り組んだ成果であった。</p> <p>自分なりに考えて掃除ができた生徒の割合は中間結果と同じで、目標を大きく達成できた。生徒会主体で無言清掃を進め、掃除時間終了まで取り組む姿勢も継続してできていた。</p> <p>全学年、夢や目標に向かって努力している生徒の割合が目標値を上まり、さらに一学期よりも高まった。学級活動や総合的な学習の時間を通して各学年で取り組んできたことが目標の達成につながったと考えられる。また、自分の良さは周りの人から認められていると思うと答えた生徒の割合も2%高まった。学級や委員会での役割や文化祭などの行事での指導によって高まったと考えられる。</p>	<p>着ベル運動やあいさつ運動などの規範意識を高める運動を引き続き進めていく。また、これらの運動の他にも、ルールやマナーを定着させるような取り組みを考えて行っていく。</p> <p>部活動については、引き続き生徒に主体性を持たせ、目標に向けた活動ができるよう意識を高めさせる取り組みを進めていく。</p> <p>日々の生活で目標をもち、自主性のある行事への取り組みを今後も行っていく。</p> <p>美化委員会で挙げられた反省点を美化委員がクラスに伝達したが、改善されたかどうかをクラスで確認する機会が少なかった。積極的な美化活動を実施しながら環境美化への意識をクラス全体で共有できるような取り組みを考える。</p> <p>1学期に引き続き、学級活動や総合的な学習の時間で自分の将来や進路に向けて考えるような活動を仕組み、学級としての成長を個人につなげていく。1学年では進路学習を通して、自分の将来について具体的に考える取り組みをしていく。</p>																														
*	<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>	<p>児童生徒と向き合う時間の確保</p> <p>長時間勤務の削減</p>	<p>教職員アンケートの「生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」における肯定的評価は、中間評価の73%から9ポイント上昇し82%になった。否定的評価の職員は、33名中6名がいた。</p> <p>その理由として、夏季休業中に2学期の計画を立てることができたことや転勤してきた職員が見通しを持てるようになったことがあげられる。</p> <p>9月～12月までの4ヶ月間で、25人の常勤教員の時間外勤務時間を入校退校記録で見ると80時間を越えている教員は、0だった。</p> <p>その他、30時間未満、30以上45未満、45以上60未満、60以上80未満、80時間以上を月ごとに分すると</p> <table border="1" data-bbox="501 1966 986 2123"> <thead> <tr> <th></th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30時間未満</td> <td>10人</td> <td>8人</td> <td>12人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>30以上45未満</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>45以上60未満</td> <td>8人</td> <td>7人</td> <td>5人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>60以上80未満</td> <td>2人</td> <td>5人</td> <td>1人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>80時間以上</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>		9月	10月	11月	12月	30時間未満	10人	8人	12人	10人	30以上45未満	5人	7人	7人	9人	45以上60未満	8人	7人	5人	3人	60以上80未満	2人	5人	1人	3人	80時間以上	0人	0人	0人	0人	<p>1, 2学期とも同様に生徒と向き合う時間が無いと感じている職員については、業務量に偏りがあるので、分掌や学年で業務の分担の見直しや協力できるところは分業するなど改善をしていく。</p> <p>次年度へ向けて、校務分掌会や学年会で、今年度の業務分担について考察し、次年度の担当者の枠組みを決めておく必要がある。</p> <p>1ヶ月の時間外勤務時間の合計が80時間を越えている職員は、2学期0となったが、45時間以上の職員は依然と平均8.3名いる。</p> <p>留守番電話の導入や業務の効率化にかかる研修や退校を促す音楽を流したりしたこと成果は、少しずつ見られる。</p> <p>企画委員会を更に機能させて、早め早めの計画を立てることで業務時間の低下へつなげる。そのためにも年度始めに毎月の企画委員会での提案内容を提示する必要がある。</p>
	9月	10月	11月	12月																														
30時間未満	10人	8人	12人	10人																														
30以上45未満	5人	7人	7人	9人																														
45以上60未満	8人	7人	5人	3人																														
60以上80未満	2人	5人	1人	3人																														
80時間以上	0人	0人	0人	0人																														